

工事監理・工事状況報告書（鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造）

（第一回特定工程）基礎・地中ばり部分

年 月 日

仙台市建築主事 又は 指定確認検査機関 様

確認済証番号	年 月 日 第 号
建築主氏名	
建築場所	仙台市 区

上記、工事中の建築物の（工事監理・工事状況）に係る結果を次のとおり報告します。

報告者	() 建築士 (大臣・知事) 登録第 号
工事監理者	() 建築士事務所 (知事) 登録第 号
住 所	
代表者	

設計図書と照合した結果、変更は ☐ ありません。

☐ ありますので、別添のとおりに報告書を添付します。

確認項目		内 容		工事監理者		検査員用		摘 要
				検査結果	指摘番号	検査方法	結 果	
敷地等	敷地	a	道路幅員・接道長			A B	適・否	
		b	確認表示板の設置			A	適・否	
		c	鉄骨製作工場名表示板の設置			A	適・否	
		d	設計図書の備え			A C	適・否	
		e	建築物の道路・敷地境界線からの離れ及び敷地形状			A B C	適・否	
		f	高さ1.8m以上の仮囲い			A	適・否	
		g	落下物に対する防護			A	適・否	
		h	山止め			A C	適・否	
① 全体	共通	a	柱、はり、壁、階段、スラブ等位置の確認			A C	適・否	
		b	かぶり厚さの確認			A B C	適・否	
		c	鉄筋の材質の確認			A C	適・否	
② 地盤	支持地盤	a	支持地盤の位置、種類、地耐力等の確認			A C	適・否	
③ 基礎	種類	a	基礎の種類、杭の工法、長さ、径、偏心による補強等			A C	適・否	
	ベース	b	基礎寸法、主筋径、本数、主筋位置、杭頭補強筋			A C	適・否	
	地中ばり	c	断面寸法、主筋径、本数、主筋位置			A B C	適・否	
		d	定着方法、継手(位置、長さ)			A B C	適・否	
		e	あばら筋の位置、径、間隔形状等			A B C	適・否	
	柱	f	主筋径、本数、主筋位置			A B C	適・否	
		g	定着（基礎部分）			A B C	適・否	
		h	帯筋の位置、径、間隔形状等			A B C	適・否	
		i	帯筋のフック形状、結束状況			A C	適・否	
④ その他	補強筋	a	設備配管の位置			A C	適・否	
	圧接継手	b	継手位置のずらし			A B C	適・否	
		c	圧接形状（膨らみ、長さ、ずれ）			A C	適・否	
		d	折れ曲がり、焼き割れ等の欠陥			A C	適・否	
		e	強度確認等			C	適・否	
	溶接継手	f	継手位置のずらし			A B C	適・否	
		g	溶接方法（突合せ）、裏当て材			A C	適・否	
		h	割れ、内部欠陥の有無			A C	適・否	
		i	溶接材料			C	適・否	
	機械式継手	j	継手位置のずらし			A B C	適・否	
		k	カップ等等の固定、接合部の耐力			A C	適・否	
		l	モルタル・グROUT材を用いた場合の強度			A C	適・否	
		m	カットを用いた場合のトルクの導入			A C	適・否	
		n	圧着による場合の鉄筋との密着			A C	適・否	
	型枠等	o	型枠状況、清掃状況等確認			A C	適・否	

④ その他	柱脚部	埋込み形式	J	柱の埋込み長さ			A B C	適・否	
			k	側柱・隅柱のU字形鉄筋による補強			A B C	適・否	
			L	鉄骨かぶり厚さ			A B C	適・否	
			m	スタッドの径、長さ、本数、配置			A B C	適・否	

※ 検査方法 A 目視検査、B 計測検査、C 工事監理者報告

※ 二重線枠内には記入しないでください。

工事監理者指摘項目等の記録 事務処理欄

指摘番号	内 容 及 び 結 果

受 付 日	年 月 日	指示書発送日	年 月 日		
検 査 日	年 月 日	合 格 日	年 月 日		

工事監理・工事状況報告書（鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造）

（第二回特定工程）二階床部分

年 月 日

仙台市建築主事 又は 指定確認検査機関 様

確認済証番号	年 月 日 第 号
建築主氏名	
建築場所	仙台市 区

上記、工事中の建築物の（工事監理・工事状況）に係る結果を次のとおり報告します。

報告者	() 建築士（大臣・知事）登録第 号
工事監理者	() 建築士事務所（知事）登録第 号
住所	
代表者	

設計図書と照合した結果、変更は ☐ ありません。

☐ ありますので、別添のとおりに報告書を添付します。

確認項目		内 容		工事監理者		検査員用		摘 要
				検査結果	指摘番号	検査方法	結 果	
報告書審査による確認事項	指定建築材料の品質確認	a	鋼材、高力ボルトセットの規格・品質の確認			C	適・否	
		b	溶接材料の規格と鋼材組合せの適否			C	適・否	
	組立検査	c	開先角度、ルート面、ルートギャップ、食い違い等組立時の鉄骨精度			C	適・否	
	高力ボルト接合部の処理	d	高力ボルトの接合部の摩擦接合面の処理、ボルト孔の径・ピッチ			C	適・否	
	溶接接合部の品質	e	外観検査及び超音波探傷検査結果			C	適・否	
現場検査事項	全体	材料の品質規格確認	a	鋼材等の品質規格証明書と現物との照合		A C	適・否	
			b	溶接材料の規格と鋼材の組合せ適否		A C	適・否	
		部材の配置	c	柱・はり・ブレース・床版等の配置		A C	適・否	
			d	柱・はり・ブレース・床版等の寸法・形状		A C	適・否	
	柱脚部	共 通	a	柱脚部接合方法と仕様確認		A C	適・否	
			b	アンカーボルトの材質・径・本数とナットかかり高さ		A B C	適・否	
		露出形式	c	座金の使用、ナットの戻り止め措置（ナット戻り止めは、二重ナット、ナット溶接）		A C	適・否	
			d	アンカーボルトの定着長さ		A B C	適・否	
			e	ベースプレート厚さ、アンカーボルトの孔径、縁端距離		A B C	適・否	
			f	根巻き部分の高さ		A B C	適・否	
		根巻き形式	g	根巻き部分の立上り主筋本数、主筋頂部のかぎ状加工、立上り主筋の基礎及び根巻き部分の定着長さ		A B C	適・否	
			h	根巻き部分の帯筋の径、配置、フック形状、結束		A B C	適・否	
			i	スタッドの径・長さ・本数・配置		A B C	適・否	
		埋込み形式	j	柱の埋込み長さ		A B C	適・否	
			k	側柱・隅柱のU字形鉄筋による補強		A B C	適・否	
			l	鉄骨かぶり厚さ		A B C	適・否	
			m	スタッドの径、長さ、本数、配置		A B C	適・否	

現場検査事項	溶接接合部	工場加工溶接部分の外観・形状・寸法 (柱-大梁、大梁-小梁接合部等)	a	溶接継目の種類（突合せ溶接・すみ肉溶接）			A	C	適・否	
			b	ダイヤフラムとフランジのずれ			A	C	適・否	
			c	突合せ継手の食い違い			A	C	適・否	
			d	アンダーカット			A	C	適・否	
			e	溶接割れ			A	C	適・否	
			f	その他の溶接部の外観・形状・寸法 (スラグ、スパッターの除去等)			A	C	適・否	
		現場溶接部分組立精度	g	開先角度、ルート面、ルートギャップ、食い違い等組立時の鉄骨精度			A	C	適・否	
		現場溶接部分の製品検査	h	外観検査及び超音波探傷検査結果			A	C	適・否	
		現場溶接部分の外観・形状・寸法	i	現場溶接の部位（設計図書との照合）			A	C	適・否	
			j	溶接継目の種類（突合せ溶接・すみ肉溶接）			A	C	適・否	
			k	ダイヤフラムとフランジのずれ			A	C	適・否	
			l	突合せ継手の食い違い			A	C	適・否	
			m	アンダーカット			A	C	適・否	
			n	溶接割れ			A	C	適・否	
			o	その他の溶接部の外観・形状・寸法 (スラグ、スパッターの除去等)			A	C	適・否	
	高力ボルト接合部	トルシア形ボルト	a	現場受入検査（導入張力確認試験）実施状況確認				C	適・否	
			b	HTBの径・本数・スプライス数・ピッチ・縁端距離・孔径の確認			A	C	適・否	
			c	摩擦接合部の摩擦面の状態				C	適・否	
			d	締付け状態の確認（肌すき、ピンテール破断、マーキングの状態）			A	C	適・否	
		JIS形六角ボルト	e	JIS六角ボルト締付機器の調整、現場受入検査(導入張力確認試験)実施状況の確認				C	適・否	
			f	HTBの径・本数・スプライス数・ピッチ・縁端距離・孔径の確認			A	C	適・否	
			g	摩擦接合部の摩擦面の状態				C	適・否	
			h	締付状態確認（肌すき、マーキングの状態）			A	C	適・否	
		ブレース接合部	a	ブレース形状、寸法、位置			A	C	適・否	
			b	ブレース仕口接合部形式、板厚等設計図書との照合			A	B C	適・否	
		2階床	a	デッキプレート合成床版の場合 デッキプレート厚、はりとの溶接			A	C	適・否	
			b	スタッド合成床版の場合 スタッド径、長さ、ピッチ			A	B C	適・否	
			c	スラブ厚寸法、鉄筋ピッチと径			A	C	適・否	
			d	主筋配置(短辺・長辺)と支持条件			A	C	適・否	
			e	定着長さと定着位置			A	B C	適・否	
			f	継手の位置・長さ			A	B C	適・否	
			g	開口部補強筋			A	C	適・否	

※ 検査方法 A 目視検査、B 計測検査、C 工事監理者報告

※ 二重線枠内には記入しないでください。

工事監理者指摘項目等の記録

指摘番号	内 容 及 び 結 果

※ この報告書は、鉄骨部分の確認項目を中心に作成しています。必要に応じてRC造の報告書も記載し添付して下さい。

事務処理欄

受 付 日	年 月 日	指示書発送日	年 月 日	第1回合格日	年 月 日
検 査 日	年 月 日	合 格 日	年 月 日		